

# 自助共助の力で助け合いの社会を創る

一般社団法人72時間サバイバル教育協会  
代表理事 片山 誠

片山 誠（カタサン）  
(株)ココロ 代表取締役  
(一社)72時間サバイバル教育協会  
代表理事

固定観念にとらわれずに自ら考えて行動  
できる自助共助の力を持った人を増やし、  
助け合いの社会を創るために全国で講  
習・講演活動中。  
4泊5日の無人島サバイバル研修などユ  
ニークな研修も数多く行う。

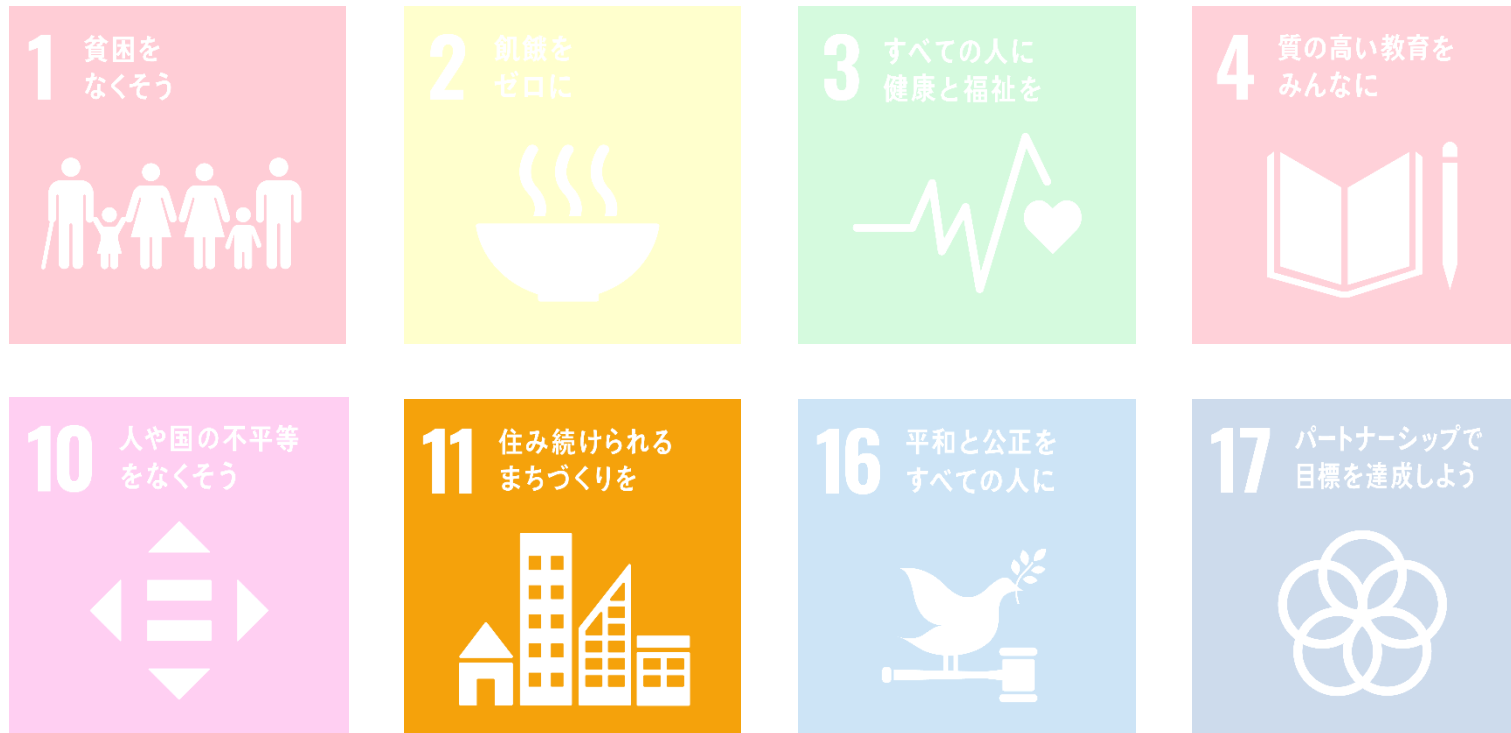
著書「もしときサバイバル術Jr」  
「車バイバル！」  
監修「目指せ！災害サバイバルマスター」



# 助け合いから解決出来る SDGs



# 防災というテーマ



# 防災も含めて助け合いで解決

様々な社会課題＝自己責任では解決しない

分断

犯罪

教育格差

貧困

高齢化

防災

# 協会の活動について



2011年  
あの日から

# 2012年 72時間サバイバルプロジェクト始動！





2泊3日のサバイバルキャンプで  
子どもたちに学んでもらう

思ったほど参加者が集まらない・・・

- ・2泊3日は初心者にはハードルが高い
  - ・そもそも防災減災訓練って必要？
  - ・なんかしんどそうやし面倒くさそう

何のために団体を設立したのか？

子どもたちに自助・共助の力を！

2016年からプログラム改革

# サバイバルマスター®認定講習



- 8つの講習を受け、検定に合格して、ワッペンをゲットしよう。
- 全部集めたらサバイバルマスターとして認定！
- 全国で開催中。

# もしとき サバイバル術

災害時に役立つ  
スキルを手に入れる!

Jr.

片山 誠  
72時間サバイバル教育協会代表理事  
イラスト=高橋未来



もしものときを生き抜く  
スキルとマインドを身につける  
自分を守り、だれかを助ける  
8つのプログラム

72H  
サバイバル  
公式テキスト

太郎次郎社エディタス



SOS  
助けを呼ぶ



ファイヤー  
火を起こし、使いこなす



ウォーター  
飲み水を手に入れる



ナイフ  
刃物で道具をつくる



シェルター  
雨風・暑さ・寒さをしのぐ



ファーストエイド  
応急手当をする



フード  
かざられた食料を  
おいしく食べる



チームビルド  
仲間と避難所生活を  
乗りこえる



ISBN978-4-8118-0828-4  
C8075 ¥1400E  
定価：本体1400円+税  
発行：太郎次郎社エディタス

救助の現場では、  
災害発生後3日間の動きが  
勝負を決めるとされる。  
災害発生時とその後を  
生き抜く力を子どもたちに  
自然体験・減災教育を手がける  
各地のリーダーが集結。  
真のサバイバルマスターをめざし、  
多くの仲間たちが参加する  
「72時間サバイバル」の  
プログラムを、きみにシェアする。

この本を執筆しているときに考えていたこと



サバイバルスキルを身につける  
ことがゴールじゃない！

# サバイバル教育の本質

サバイバル体験の中では  
想像していたことと違うことが起こる

体験を通じて、本当はどうなのか、  
自分で考えて、納得することが大事

生きる力は、教えられて身に付く  
のではなく、試行錯誤の末に自分で  
身に付けるものじゃないでしょうか

失敗を許されて、  
失敗から学べる環境を用意する

サバイバル教育を通じて、

- ・自ら考える力
  - ・判断をする力
  - ・行動に移せる力
- を身につける

これこそが生きる力→非認知能力

学校で学んだことが、子供たちの「生きる力」となって、  
明日に、そしてその先の人生につながってほしい。

これからの社会が、どんなに変化して予測困難になっても、  
自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、  
それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。

そして、明るい未来を、共に創っていききたい。

2020年度から始まる新しい「<sup>がくしゅうしどうようひょう</sup>学習指導要領」には、  
そうした願いが込められています。



「学習指導要領」とは、全国どこの学校でも一定の教育水準が保てるよう、  
文部科学省が定めている教育課程（カリキュラム）の基準です。  
およそ10年に一度、改訂しています。  
子供たちの教科書や時間割は、これを基に作られています。

これまで大切にされてきた、  
子供たちに「生きる力」を育む、という目標は、  
これからも変わることはありません。  
一方で、社会の変化を見据え、新たな学びへと進化を目指します。

## 生きる力 学びの、その先へ

新しい「学習指導要領」の内容を、多くの方々と共有しながら、  
子供たちの学びを社会全体で応援していきたいと考えています。

## 目指すのは「社会に開かれた教育課程」の実現

保護者の皆さまや地域の皆さまのお力添えをいただきながら、  
よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を達成していきます。

保護者の皆さまへ

子供たちの「生きる力」を育むには、  
学校での学びを日常生活で活用したり、  
ご家庭での経験を学校生活に生かしたりすることが、  
とても大切です。

お子さんが学校で学んだことについて、  
ご家庭で、ぜひ話してみてください。

保護者の皆さまの働きかけが、  
子供たちの「生きる力」を育む大きな原動力になります。



保護者の働きかけがある子供の学力は高いという傾向があります。  
例えば……

- 学校や友達のこと、地域や社会の出来事など家庭での会話が多い。
- テレビ・ビデオ・DVDを見る時間などのルールを決めている。
- テレビゲーム（携帯電話やスマートフォンを使ったゲーム等を含む）をする時間を限定している。
- 子供に本や新聞を読むようにすすめている。
- 子供に最後までやり抜くことの大切さを伝えている。
- 自分の考えをしっかりと伝えられるようになることを重視している。
- 地域や社会に貢献するなど人の役に立つ人間になることを重視している。

〔平成29年度全国学力・学習状況調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究〕

DATA



「生きる力」を育むために

# 子供たちの学びはどう進化するの？

## 主体的・対話的で深い学び

(アクティブ・ラーニング)

の視点から「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視して授業を改善します。



一つ一つの知識がつながり、「わかった!」「おもしろい!」と思える授業に

見通しをもって、粘り強く取り組む力が身に付く授業に



周りの人たちと共に考え、学び、新しい発見や豊かな発想が生まれる授業に

自分の学びを振り返り、次の学びや生活に生かす力を育む授業に

## カリキュラム・マネジメント

を確立して教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図ります。



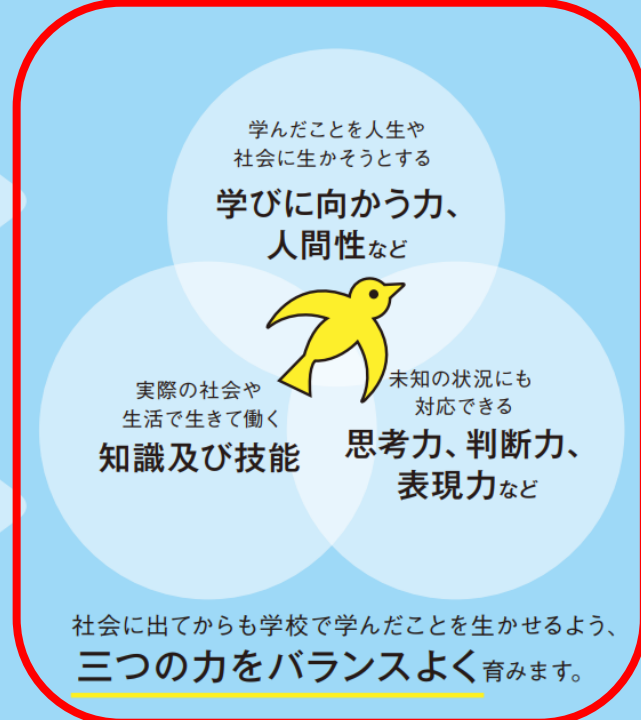
学校教育の効果を常に検証して改善する



教師が連携し、複数の教科等の授業などを通して授業をつくる



地域と連携し、よりよい学校教育を目指す



## 新たに取り組むこと、これからも重視することは？

下記のほかに、「体験活動」「キャリア教育」「起業に関する教育」「金融教育」「防災・安全教育」「国土に関する教育」なども充実します。

### プログラミング教育

コンピュータがプログラムによって動き、社会で活用されていることを体験し、学習します。

### 外国語教育

「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の力を総合的に育みます。

### 道徳教育

自分ごととして「考え、議論する」授業などを通して道徳性を育みます。

### 言語能力の育成

国語を要として全ての教科等で子供たちの言葉の力を育みます。

### 理数教育

観察、実験などによる科学的に探究する学習活動や、データを分析し、課題を解決するための統計教育を充実します。

### 伝統や文化に関する教育

我が国や郷土が育んできた日本の伝統や文化を学びます。

### 主権者教育

社会の中で自立し、他者と連携・協働して社会に参画する力を育みます。

### 消費者教育

自立した消費者を育むため、契約の重要性や消費者の権利と責任などについて学習します。

## 子供たちが学ぶ教科等は？

太字が新設・変更部分です。

その他の教科等についても、育成を目指す資質・能力を明確にして、授業を改善します。

### 幼児期の教育

遊びや生活の中で生きる力の基礎を培います。



### 小学校

- ・国語
- ・社会(3~6年)
- ・算数
- ・理科(3~6年)
- ・生活(1,2年)
- ・音楽
- ・図画工作
- ・家庭(5,6年)
- ・体育
- ・**外国語(5,6年)**
- ・**特別の教科 道徳**
- ・**外国語活動(3,4年)**
- ・総合的な学習の時間(3~6年)
- ・特別活動



「特別の教科 道徳」では、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて、認め、励ますための評価(記述式)を行います。特定の考え方を押し付けたり、評価を入試で使ったりしません。

特別支援学校 小学部

### 中学校

- ・国語
- ・社会
- ・数学
- ・理科
- ・音楽
- ・美術
- ・保健体育
- ・技術・家庭
- ・外国語
- ・**特別の教科 道徳**
- ・総合的な学習の時間
- ・特別活動



特別支援学校 中学部

### 高等学校

- 各学科に共通する各教科等
- ・国語
- ・地理歴史
- ・公民
- ・数学
- ・理科
- ・保健体育
- ・芸術
- ・外国語
- ・家庭
- ・情報
- ・**理数**
- ・**総合的な探究の時間**
- ・特別活動
- 主として専門学科において開設される各教科
- ・農業
- ・工業
- ・商業
- ・水産
- ・家庭
- ・看護
- ・情報
- ・福祉
- ・理数
- ・美術
- ・英語
- ・音楽



特別支援学校 高等部

上記の教科のほか、障害による学習上または生活上の困難を改善・克服するための「自立活動」、知的障害のある子供のための各教科等もあります。

特別支援教育 幼児期から高等学校段階まで、全ての学校で障害に応じた指導を行い、一人一人の能力や可能性を最大限に伸ばします。

# 助け合いの社会の構築

サバイバルマスターになる  
＝自助力を身につける

例えばチームビルドプログラムで  
行う避難所運営シミュレーション

共助出来るようになるためには、  
どんな知識やスキルが必要か？

支援が必要な人も守れるのか？

避難所において、  
みんなで助け合う方法を考える

これでひとまず安心



ちよつと待って

支援が必要な人は  
災害時じゃなくてもいるのでは？

サバイバルマスターは  
災害時以外は  
無関心でいいの？

日頃から支え合う意識があれば、  
災害時でも支え合える

減災教育から社会教育へ

ここで学んだことを  
日常にも活かしていく

# 大学生や社会人の役割

子どもたちと一緒に  
自助共助出来る社会を創る  
社会教育者が必要

それを大学生や社会人が担う



サバイバル教育を通じて  
小中学生と大学生が共に学ぶ場を

一人ひとりが自助力を身につけ、  
弱者にも優しい、  
助け合いの社会を創るために

# 防災も含めて助け合いで解決

様々な社会課題＝自己責任では解決しない

分断

犯罪

教育格差

貧困

高齢化

防災

# モデルケースを この市川市で作りませんか



ご清聴ありがとうございました